

善隣友好

第18回外国語スピーチ発表会&交流会

中学生堂々のスピーチ ～世界にはばたけヤングパワー!～

やまかわ なみ さん 米原 ゆい さん (南部中)
[If You Wish to See a Change]



発表者

かめ おほる か さん (法勝寺中)
[My Dream ～将来の夢～]



なが えだかひろ さん (法勝寺中)
[The thing of bullying
～言葉のいじめ～]



韓国語教室の皆さん「ももたろう」



英会話教室の皆さんによる英語劇
「三つの願い」



子どもの可能性を開拓し、 南部町の国際理解の取り組み

この度、南部町の「多文化交流会」に参加させてもらえる機会がありました。幅広い年代の皆さんによる発表は、色々な言語による語りや劇で、とても楽しいものでした。

南部町でなぜ「国際理解」の取り組みがあるのでしょうか？もちろん、身近におられる外国の方々や仲良くするためもあるでしょう。加えて私は、『なんど』という地域の良さを、町内、町外、県外、そして国外へ発信していくことも、これからの国際理解の大きな柱だと思っています。

他者（多文化）を理解することももちろん大切ですが、それと同時に、地域を知り、自分を知り、自分の考えや思いを伝えることも大切です。今回のスピーチでは、中学生も英語で他者の考えを広めたり、自分の思いを発表したりしていました。このような経験は、様々な価値観を持つ人と『ともに考える』『ともに行動する』力にもつながると思います。

そして、その力は子どもの可能性を拓き、新しい世界の扉を開くことになるでしょう。

今後、南部町の国際理解の活動に期待し、応援したいと思いました。

南部中学校 国際理解教育担当
見世 直樹

ようこそ南部町へ

コーナー・コリンズ先生 (法勝寺中A・L・T)



はじめまして。私はコーナー・コリンズです。昨年8月から、法勝寺中学校と、西伯小学校で英語指導助手をしています。出身は、アメリカ・アイダホ州の小さな町ボカテロという所で、ジャガイモと、豊かな自然、そしてアウトドア・スポーツが有名です。アイダホ州立大学で国際学を学びました。私は10才位から日本語と日本文化を学び始めました。なぜなら日本は、とてもユニークで興味深い国だと思ったからです。それに国士はとても美しく人々は皆フレンドリーです。10年前に姉妹都市交流プログラムで初めて日本に来て、北海道・岩見沢市のホストファミリーのお宅で2週間暮らししました。6年前に再び来日し、熊本の南関町で英語を教えています。子ども達とのふれ合いは楽しく国際交流を深めるお手伝いができるのもとても楽しいものでした。人々が、他の国の文化や言葉学ぶことはとても大切です。そしてそれは人々を成長させます。今日日本では、英語教育は、とても重要になってきています。私は生徒達が楽しく英語を話し、練習し、学ぶことが出来るよう全力を尽したいと思っています。

Profile
●家族
父 (69才)、母 (65才)
姉 (28才)、祖父 (94才)
犬 (カウボーイ、2才)

- 趣味
・ラグビー (大学で4年間プレーしていた)
・アーチェリー (10年間やっています)
- 生徒の第一印象
生徒達は皆とてもフレンドリーでかつ礼儀正しい。
- 学校生活について
アメリカでは、日本の生徒のように、掃除はしない。給食もない。クラブ活動をするのはほんの少しの生徒だけ。
- 好きな日本食
トンカツ、ぎょうざ



コートジボワール国から 視察を受け入れ



平成26年7月7日 (月)、西アフリカのコートジボワール国の行政関係者が地方行政を学ぶため、南部町を訪れました。平成19年に発足した町内7地域振興協議会の活動状況と富有の里賀野振興区の特産品開発・防災・地域づくり計画等の説明を行い、その後意見交換をしました。

また、農産物加工施設「えぶろん」で、加工品づくりの体験 (ブルーベリー餅つき、えぶろん豆腐の製造過程の見学・試食) を行いました。参加者の代表は「今回の研修をもとにコミュニティ・住民協議の場を強化したい。ブルーベリー餅や豆腐がとても美味しかった。」と話し、箸を上手に使ったコートジボワール国の関係者と和やかに懇談し、参加者の方々はとても満足そうでした。



国際交流の 20年を振り返る

昭和五十九年、県内市町村に先駆け町民五十名が中国を訪ねている。当時の磯田町長の希望でもあったと思う。落合出身の松下芳三郎氏の指導感化を受け朝鮮総督府に入り主として砂防と植林事業に努力、その苦勞の業績は江原道中心に残っている。その後磯田氏は西伯町長を二期努め交流事業も色々と定着し、平成六年、本国際交流協会が誕生したのである。その翌七年、坂本町長となりより先輩の意志を継がれ、平成九年、百三十八名の旅行団を結成、米子空港を飛び立ち三峽クルーズが実現したのである。終わりに本協会のいよいよの発展をお祈りする。

国際交流協会

初代会長 陶山 優



ハンリム大学生との交流

平成27年2月13日(金)～2月15日(日)

なつかしきホストファミリーと韓国で感動の再会



交流パーティー



ソウル市内にて



ハンリム大学にて

1996年に来町した
学生の結婚式(2006年)



交流パーティー



キムヒョンジュさん ホウキョンチルさん
交流員だった二人も駆けつけました



日本にも家族ができました

江原日報(韓国新聞)掲載

翰林大の大学生と日本現地の人々との民間交流が20年も続いていて、注目を浴びている。

翰林大日本学科と鳥取県南部町とのホームステイ交流20周年記念行事が13日ソウルで開かれた。1995年、鳥取県南部町に日本政府のJETプログラムの一環として派遣されたホウキョンチル氏が韓国人国際交流員として旧西伯町に配置された。これが切っ掛けで繋がった彼らの絆は、今も続いている。

翰林大日本学科の在学生達は、毎年夏休みに十数名が南部町にホームステイ事業交流を通して日本文化を体験する機会を得、今まで191名が交流に参加してきた。日本南部町国際交流協会も発足20周年を記念するため、13日から15日まで来韓し、翰林大等を訪問した。日本学科長の齊藤明美教授は「日本人同士でもコミュニケーションを取るのに苦労する今の時代に、韓国の大学生達が日本現地の人々と疎通し、交流を続けてきた」と述べた。

お気軽にお立ち寄りください

副町長 陶山 清孝

ハンリム大学を訪問し、齋藤明美日本学科長、李 志遠教授にご案内を頂きました。長い韓国生活の中で日韓の相互理解のための著書も多数執筆されている齋藤先生に、韓国人が日本人にもつ「本音と建前」について聞いてみました。先生曰く、よく韓国で例に出されるのは、日本人がお気軽にお立ち寄りくださいというのは建前で、本気で行ってはダメだというものですね。なるほどと、うなずいてしまいました。国際交流にはお互いの文化の違いを知り、理解に努めることが大切だと感じました。そして、その後訪れた戦争記念館、入ってすぐ目に入った竹島(独島)の巨大パネルを見ながら相互理解の難しさもかみしめた旅でした。



20周年

平成26年7月13日(日)～7月22日(火)

ハンリム大学生 7名ホームステイin南部



歓迎パーティー



茶道体験



歓迎パーティーでテコンドー披露



森の学校で孔版画体験



こそ！南部町・

韓国ソウルにて

遠藤 忠明

2月に南部町主催で韓国旅行に行った。ソウルに着いた夜、パク・ユンジンさんに会った。驚いたことに、彼女に手伝ってもらって長年ホームステイに来日した子ども達と連絡をとってくれたということを聞きすばらしい子だと思った。そして大勢の元ホームステイに来日した子ども達が来られ家族として紹介し合い楽しい時を過ごした。よく日、パク・ユンジンさんと友達のダビンさんがソウルを案内してくれることになった。ダビンさんは生田さんと一緒だ。まず焼き肉店に行った。キムチとナムルが沢山出てきた。あと地下鉄で水族館に行った。大きかったし、イワシのショーがあって楽しかった。でも、大田の水族館と比べたりした。そうかここは韓国の首都なんだと思い直した。南部町のことも思い出した。春にニョキニョキと生える筍、桜の花や山の芽吹きを見せてあげたいのでぜひまた日本に来てください。



ホストファミリーになって

坂本 篤美

孫達が大きくなり少し余裕もでき、初めてホームステイを受けました。ハヨンさんは大学2年生でとても素直な女性でした。流暢な日本語を話し、テコンドー、バイオリンなど何でもこなします。孫達がなついて楽しい毎日であったという間にお別れの時を迎えました。近くでいて遠い国のようにでしたが、人間として仲良く出来ると思いました。笑顔と「また来ます」の言葉を思い出しながら、再会を楽しみにしているこの頃です。



善隣友好

国際交流20周年記念式典



日本と韓国には竹島問題、慰安婦問題など過去も現在も解決が難しい政治状況が存在するにもかかわらず、南部町とハンリム大学の学生との交流は20周年を迎えました。昨年二月にはソウルで記念式典を開催し、今年一月には来町中の学生も参加して盛大に町内で記念式典を開催することが出来ました。

ホストファミリーをお引き受けいただいた町民の皆様、南部町国際交流協会会員の皆様、町関係者の皆様に、あらためてお礼を申し上げます。

平成八年二月、厳寒の旧西伯町に二十数名のハンリム大学学生が初来町以来、今年で196名をホームステイで迎え入れ交流を温めてきました。

私たちのこの小さな交流が、日韓友好の小さな懸け橋になることを願っています。

南部町国際交流協会
会長 塚田 勝美

交流は永遠に

新しいALTの先生です よろしくお願ひします

南部中ALT

- 名前 グレアム コープ
- 出身地 イギリス イングランド マンチェスター
- 家族 妻 娘
- 趣味 読書(特にSF ファンタジー)
- 好きな食べ物 寿司 刺身 天ぷら 焼肉
- 日本への興味 日本文化や日本芸術
- 日本の印象 日本は清潔、食べ物がおいしい。地域のつながりが強く安心して暮らせる。
- 南部町や南部中の印象
 - ・桜が美しい。
 - ・美しい大山の景色
 - ・生徒はマナーがよい。また礼儀正しく親切。先生たちもフレンドリーで自分を心から歓迎してくれている。



法勝寺中ALT

- 名前 ニコラス・マイケル ライリ
- 出身地 アメリカ ケンタッキー州 パデューカ
- 趣味
 - ・小説・詩・歌を書くこと
 - ・ベースギター
- 好きな食べ物は? 和食の中で大トロが一番好き
- どうして日本へ? 大学で日本の歴史と宗教について学ぶ。それから留学で日本へ。
- 法勝寺中と生徒について 法中はとてもすばらしい。先生方は親切でとても熱心。子ども達も、個性豊かですばらしく時にはシャイな面もあるけれど、時間がたつと心を開いてくれる。
- 日本とアメリカの違いは?
 - ・日本に来て最初に目にするのは、みんな日本人!
 - ・日本ではリサイクルがとてもよくなされている。
 - ・アメリカ人はお互いに、もっとよくしゃべる。



อาศัยอยู่ในประเทศไทย อาศัยอยู่ในประเทศไทย อาศัยอยู่ในประเทศไทย อาศัยอยู่ในประเทศไทย อาศัยอยู่ในประเทศไทย อาศัยอยู่ในประเทศไทย อาศัยอยู่ในประเทศไทย อาศัยอยู่ในประเทศไทย



タイのめずらしい蘭



อาศัยอยู่ในประเทศไทย อาศัยอยู่ในประเทศไทย อาศัยอยู่ในประเทศไทย อาศัยอยู่ในประเทศไทย อาศัยอยู่ในประเทศไทย อาศัยอยู่ในประเทศไทย อาศัยอยู่ในประเทศไทย อาศัยอยู่ในประเทศไทย

タイにへんして 蘭に出逢う旅

原田 智子

タイ王国は各種の蘭が街中至る所で見られます。カトレア、胡蝶蘭等品種も多く日本では見た事のないものも多くあります。当初は蘭の花々を見る度に幸せ気分が溢れ出ていたように思いますが、しかし煩悩の多い私は次第に物足りなさを覚えるようになった頃に今まで一度も見た事のない蘭があるブログで見ました。

その場所は160km離れたオムコーイという地区でカレン族の村でした。早速、連絡をして来年花が咲いたら連絡をいただく約束をしました。首を長くして待ちました!! そして、時速40kmも出ないオンボロバスに揺られて4時間半かけて到着しお迎えのバイクの後にまたがりバンブーハウスに着きました。ようやく待ちこがれていた花に出逢えました。花姿は小さくて少女がスカートを翻えして踊っているように見えました。勝手に踊り子蘭と命名して、私の心は満足度100%を越えました。私の10年間のチェンマイ暮らしで一番良かったと思える事です。

編集後記

南部町国際交流協会の広報誌「善隣友好」は、年一回全戸配布をさせてもらっています。

今年は、南部町国際交流協会が韓国江原道春川市にあるハンリム大学日本学科と、1996年2月から交流を始めて20年の記念すべき年、「善隣友好」はその話題を載せました。

近くて遠い国といわれた韓国、まだまだ日韓の関係は政治的にも課題を残していますが、私たちの交流は民間交流、政治的な問題が発生した年も、継続して交流を続けてきました。これはひとえに、交流事業に携わっていただいた大学関係者と南部町国際交流協会会員の皆様のご理解とご協力があった賜物で、近くて遠い韓国は近くて親しい国になりました。国際交流は、人と人、心と心のふれあいです。これからも小さな草の根交流を続けます。

南部町国際交流協会
事務局長 野口 隆資

ハンリム大学生4名来町

平成28年
1月19日(火)～
1月26日(火)

▼ゆうらくにて



イナレさん



記念式典のあとの交流
パーティーで韓国の雑煮
(トック)を作ってあげ
ました。



▲南部町役場 法勝寺庁舎前 帰国の朝

キム・ジュヒョンさん



ゆうらくと言う老人ホームに行っ
た。そこは団体での生活にも関わらず
自分の部屋があって、暖かい雰囲気
で心地よかった。ぼくたちは用意して
きた踊りを踊った。恥ずかしかったけど、喜んでいるおじ
いさん、おばあさんを見ていると、韓国にいるおばあ
さんを思い出して、一生懸命に踊った。

ザン・ボム・テさん



来る前に期待した以上
のものをもち帰ることが
できました。



◀TV放映

キム・ミンジョンさん



県庁に行って県会議員
の方たちの話を聞き、議場
の見学をさせていただきました。その様子がNHKで放
映されびっくりしました。

▲ホストファミリーと出雲大社にて

韓国ハンリム大学交流20周年記念式典 外国語スピーチ発表会

「20周年をふり返って」
ハンリム大学交流20周年記念式典
外国語スピーチ発表会



初代事務局長 生田俊作さんの話

韓国ハンリム大学より
ホストファミリーへ
感謝杯贈呈!



多数の学生をホームステイ!



●遠藤忠明さん ●生田公良さん
●浜本 肇さん ●入口 幹さん

はじめての
タイ語によるスピーチ



原田智子さん
タイ語「サワデーカップ (こんにちは)」

韓国語教室の皆さんによる歌
ギター演奏
ハンリム大学交流20周年記念式典
外国語スピーチ発表会



ハンリム大学生と合唱

英語スピーチ&
20周年記念
発表会
ウクレレ演奏



丸山 寛さん

善隣友好

会見第二小学校へようこそ!

ハンリム大学生と交流



●宮本 萌愛(6年生)
ハンリム大学生にハングル文字で名前を書いてもらいました。ハングル文字は日本の文字とちがって丸がついていて絵みたいだなと思いました。
給食はカレーやスイカができました。韓国では、カレーを食べながらスイカを食べるときいて、すごい食べ方をするなと思いました。

交流から始まる相互理解
国際理解教育担当 樋口 貴
ハンリム大学の学生との交流は、大変有意義な時間でした。まずはじめにハングル文字で児童が自分の名前を書くという活動をしました。児童一人一人に対しハンリム大学生が一人数度つき、お互いに会話をしながら自分の名前をハングル文字で書いていきました。活動の中でお互いのことを聞き合ったり、紹介し合ったりすることができたので、一緒に何かをするという活動は、交流を深めるという点で非常に効果的だと感じました。
その後は、全校で給食を食べました。本校は、全校で一緒に食べているので準備から片付けまで楽しく活動できました。食事中には、韓国の学校の様子や文化など、お互いの国の食べ物などの話題で会話

●福本 隆斗(6年生)
ハンリム大学生とアンパンマンの話などたくさん話せてよかったです。バナナおにでは、とても足がはやくだったので、つかまえてくれたけど、楽しかったです。また交流したいと思いました。

が盛りあがりました。
食後は、全校話し合い活動で決めた「バナナおに」という遊びをみんなでした。ハンリム大学の学生も汗をかくほどに全力で遊んでくたさいました。子ども達も大きいお兄さんやお姉さんと楽しく遊ぶことができてとても喜んでいました。
ハンリム大学生は、学ぼう、交流しようという意欲が非常に高く、そのことが児童に伝わり、心がつながるよい交流会になりました。
本校は、児童数が少ないので、このような貴重な経験を全校で共有することができません。また、機会があればぜひ交流をしたいと思っています。ありがとうございました。

平成29年1月28日
いい荘

第20回

外国語スピーチ発表会&交流会

今回は出場者が多く、外国語も増えて発表者も聞く人も楽しみ、例年以上にたいへん盛り上がったスピーチ発表会になりました。

南部中学校
内藤さつきさん
「私の先輩のこと」
〈英語〉



南部中学校
中村紗子さん
「私のいとこのこと」〈英語〉

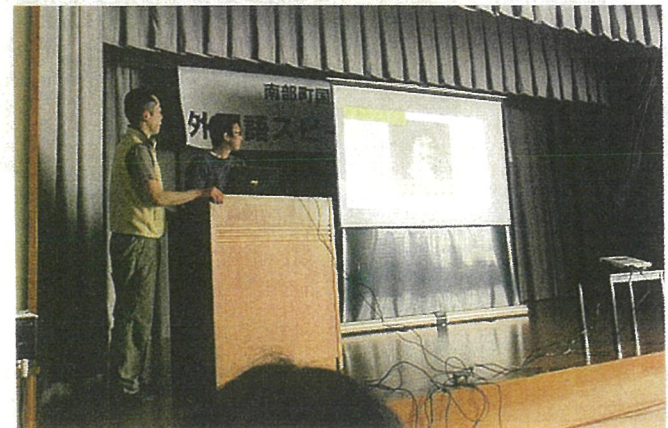


法勝寺中学校
石田新さん・恩田未弥さん
「あなたが望めば変わる」
〈英語〉

南部町国際交流協会 主催 外国語スピーチ発表会&交流会



韓国語教室の皆さん
歌「ZARD/負けないで」



青年海外協力協会
亀山明生さん〈モンゴル語〉・小椋雄亮さん〈フランス語(カメルーン)〉
「あの有名なセリフをモンゴル語・フランス語で言ってみよう!」



南部町高校生サークル With you 翼
「韓国訪問研修報告」



編集後記
南部町国際交流協会の活動に参加して、実際に外国の方と出会う機会が少なかったですが、最近山陰でも外国人旅行者を見かけることが多く、職場にも外国人研修生が来るようになりまし。外からの視線で、日本をみつめ直すことは大切なことだと思っています。そして今後日本の鳥取県の南部町の良さを発信出来る表現力を身に付けていきたいと思いました。
南部町国際交流協会
澤下 由里

南部町の高校生はじめて韓国へ

平成28年7月26日～7月29日



千支をモチーフに
タンブラー作り



チャルモックスムニダ



とても大きな
図書館でした



世界遺産
「水原華城」

「高校はないが高校生はいる」をスローガンに、高校生への支援が高校生自身の生き方を豊かにし、さらには今後のまちづくりの担い手を育てる目的で平成27年度に立ち上げた南部町高校生サークル「With you 翼」。

平成28年度は活動の中にさらに国際的視点を取り入れようと国際交流事業を企画しました。3泊4日の日程で南部町国際交流協会が20年以上にわたり草の根交流を続けてこられた韓国ハンリム大学を7名の高校生が訪問しました。言葉や文化の壁を越えた人と人とのつながりの素晴らしさを強く感じた4日間でした。

南部町教育委員会 大下 真史



平成28年11月26日、交流協会会員とその家族24名で日本を代表する国際貿易港神戸へ年一回の研修旅行へ出かけました。神戸北野異人館ではボランティアガイドさんに開港当時の話や、何故この場所が居住地になったのか等の説明を受け、異人館の代表的な「風見鶏の館」へ案内してもらい、個々の部屋の説明や農民などの一般の日本人と外国人との直接交流があったことを教えてもらい、これを国際交流だと思いました。

次に訪れたのは「港町神戸」を味わえるメリケンパーク。自由行動で真っ赤な「神戸タワー」展望台から大パノラマを一望する人、ハーバーランドでお茶やショッピングをする人、それぞれに楽しみました。ベイエリアを歩きながら飛び交う外国語に耳を傾けながら国際交流の大切さを学んだ研修旅行でした。

田淵 千里



神戸の歴史と文化を学ぶ

会員国内研修旅行

第21回

ハンリム大学生5名ホームステイin南部

平成28年7月12日～7月19日



アソニョンハセヨ! (こんにちは) 坂根いきいきサロンにようこそ!

韓国のハンリム大学生に坂根のいきいきサロンを体験していただくことになり、当日私たちは練習して覚えた「アソニョンハセヨ」の挨拶でお迎えしました。

学生の皆さんは、到着するや否や「こんにちは。よろしくお願います。」と日本人以上に丁寧な日本語の挨拶をされびっくりしました。

自己紹介が始まりました。「毎日楽しく、見る物する事すべてが初めての体験で感動している。日本の文化や習慣にとても興味があり、たくさん経験して帰りたい。」と何の違和感もない流暢な日本語で話されたのに、これまたびっくりでした。

次にいきいきサロンでいつもしている体操や指の運動をした後、今月誕生月の方の御祝いに全員でハッピーバースデーを歌いました。次に「ふるさと」を知っておられたら一緒に歌いましょう。」と一言と、一人の学生さんが、「この歌は、鳥取県出身の作曲家が自分の故郷を思い描きながら作られたそうですね。」と言われ、私たちより日本のごことをよく知り、勉強しておられるなど感心しながら一緒に歌いました。

次は「七夕」の短冊に願い事を書いて笹に結びました。一人が、「明日の大山登山は苦手だから、雨が降りますようにと書こうかな。」と言ったと、もう一人が、「僕は登りたいので、晴れますようにと書く。」とどちらの願いを神様が聞いてくれるかな。なんて言ったり「彼女ができますようにと書いていいですか。」なんて言ったり、ユーモアたっぷりでした。それぞれが日本語や韓国語で書いて笹に結びました。

続いて、お昼ご飯用に長いのり巻き作り。テーブルに新聞紙やラップをして、その上にのりを置き、すし飯を広げ、切った具を乗せて、かけ声と共に二匹に具を押さえながら巻きました。

出来上がった長いのり巻きを切って、ソーメンの入ったすまし汁といっしょにいただきました。「このすまし汁はすごくおいしいけど何でだしを取っていますか。」との質問に、昆布や鰹節と答えると、韓国では大根や玉ねぎでだしが甘くなること。また、ソーメンに似たものもあるが、太さが少し違うとのこと。本当にその興味の深さに感心しました。日本に対する学生さんたちの豊富な知識に感動し、ほんの短い時間でしたが、楽しく交流ができ、本当に素晴らしい思い出となりました。ありがとうございました。

坂根いきいきサロン 亀尾 嘉子